

令和5年国語科評価規準 第5学年

単元・教材のねらいと、「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から、あてはまるものを表示。重点指導事項には、◎を付した。

△知識・技能 ◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと ☆他教科との関連

〔第5学年及び第6学年〕目標（「学びに向かう力，人間性等」の単元目標）

(1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。

(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。

(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

[illegible]

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
11	4 (書く 1)	「古典」を楽しむ	△昔から読み継がれている物語を読み、感想を書く。 △親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 ⇒知技(3)ア △古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。 ⇒◎知技(3)イ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒知技(3)ウ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆総合的な学習の時間・道徳：昔の人の思いや考え方にふれ、今と昔の違いや共通点について調べたり、関心を高めたりする。	1 2 3 4	○単元とびらを読み、学習の見通しをもつ。 1. 『竹取物語』『平家物語』『伊曾保物語』にふれて、その文章の一部を音読する。 2. 日本の伝統芸能にふれ、演劇や絵本、マンガや映画など、多様な表現に生きている古典を集めたり読んだりして人々との関わりについて知る。 3「古典」にふれた感想を文章にまとめる。	○昔から読みつがれている物語を「古典」ということ、今なお読まれている作品を読んで感想を書くことをつかませる。 ○それぞれの物語の概略と引用された原文の内容の大体を知り、古文を音読してみる。教師の範読にしたがって、学習者に復読させるとよい。 ○物語に寄せる、それぞれの時代の人々のものの見方や感じ方などを考えながら読むようにする。 ○ここで取り上げられている物語について、知っていることがあれば発表させてもよい。 ○ p.26・27を読み、能や狂言、人形浄瑠璃、歌舞伎などによって、物語を劇化し、人々が楽しんでいたことをおさえたい。さらに、現代でも古典に材を取った多様な作品があることに気付かせ、情報を集めたり、紹介し合ったりさせたい。 ○巻末付録の『附子』を読み合ってもよい。 ○「日本昔話」や子ども向けに現代語で書かれた古典、マンガや映画などでも古典をもとにした作品があることを知り、簡単な感想文を書かせる。「おもしろい」と感じたところや、登場人物の気持ちにおいて共感できる所、情景の描写の仕方などに着目して、感想を書くことを押さえる。	◎【知技】古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。（〔知識及び技能〕(3)イ） ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） 【態度】進んで昔から読み継がれている物語を読み、学習の見通しをもって「古典」を読んだ感想をまとめようとしている。
11	2	かなづかいで気をつけること	△仮名遣いのきまりを理解して、文を正しく書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ	1 2	○学習内容を理解し、日常化への見通しをもつ。 1. p.28・29 の例文を読み、どちらの文字を入れたらよいか話し合う。 2. 仮名遣いのきまりを理解する。 3. 仮名遣いのきまりに気をつけて、問題を解く。 4. 日常の言語生活における仮名遣いを振り返る。 ○学習したことを振り返る。	○教材冒頭のフキダシによって、日常の言語生活との関連を意識づける。 ○例文から、仮名遣いは、全て発音どおりに書けばよいということではないことに気づかせ、仮名遣いのきまりを学ぶことの必要性を感じさせる。 ○教材にそって、仮名遣いのきまりを確認していくようにさせる。 ○仮名遣いの原則の例外の用例を知り、習熟させるようにする。 ○仮名遣いのきまりの分類を思いうかべながら、どういう理由でその仮名遣いになるのか、発表しながら答えさせると理解がより深まる。 ○日頃、書きまちがいなどをしている語句などについて話し合い、正しい書き方を意識づける。	◎【知技】文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】積極的に仮名遣いのきまりを理解し、学習課題に沿って文を正しく書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
11	1	漢字の広場 ④ 漢字の成り立ち	△漢字の成り立ちについて関心を深める。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 漢字の四つの成り立ちの種類について概観する。 2. 象形文字について理解し、設問に答えたりして、ノートにまとめる。 3. 指事文字について理解し、設問に答えたりして、ノートにまとめる。 4. 会意文字について理解し、設問に答えたりして、ノートにまとめる。 5. 形声文字について理解し、ノートにまとめる。 6. 漢字辞典を利用して、形声文字の意味を表す部分(部首)と、音を表す部分を確認する。	○漢字の成り立ちについて理解するという学習課題を確かめ、漢字の使い方などを理解させて、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○「字形」のみに目が向きがちとなるが、取り上げられた文字について、熟語を集め、それらを参考にしながら、「意味」や「字音」にも着目できるようにしたい。 ○単体の漢字である象形文字と指事文字については、漢字のでき方がどのように発想されているかについてふれることを通して考える程度でよい。 ○辞典によっては、成り立ちの解説で、象形・指事などの用語を使っていない場合がある。また、辞典によっては、成り立ちの解説が異なる場合があるので注意する。研究の進展によって学説が分かれるようになったためである。 ○象形文字とは何かについて具体的に解説している。「手」を例に、どのような発想で作られてきたのかを考えるようにしたい。 ○象形文字には、その文字がそのまま部首になっているものが多い。 ○指事文字とは何かについて具体的に解説している。「本」を例に、どのような発想で作られてきたのかを考えるようにしたい。 ○「人＋立→位」という造字の方法を理解するとともに、「位→人＋立」と漢字を分解して、意味を考える解字の習慣が身につくようにしたい。 ○形声文字の数は、漢字の80%を占めるほど多い。造字の方法の理解とともに、解字の習慣を身につけることによって、未習の漢字の意味や読み方を推測できる可能性が広がるのが理解できるようになるとよい。 ○4上p.70で学んだことを想起できるようにする。 ○一つ一つの漢字の字源を明らかにし、覚えることをねらいとしていない。複数の構成要素を組み合わせることによって新しい漢字をつくってきた漢字の特性に興味・関心が向くようにしたい。 ○「音を表す部分」が共通する漢字を、関連づけて整理できるとよい。 [例]「反」(ハン)→「板」「坂」「飯」	◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付いている。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。（〔知識及び技能〕(3)ウ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって漢字の成り立ちについて関心を深め、漢字事典で調べようとしている。
11	1 (書く1)	漢字の広場 ④ 四年生で学んだ漢字 ④	△絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)オ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(2)ア	2	7. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 8. 4年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 9. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ○学習したことを振り返る。	○絵に描かれたことと、言葉からわかるこの地域の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 ○描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 ○描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 ○条件をつけて文を書くよう促すと、記述の仕方に工夫が見られるようになる。 (例) この地域の様子を紹介する文を書く。 絵の中の言葉を二つ以上使って書く。 ○表現を改めたり、書きまちがいを正したりして、書いた文を発表する。 ○初めに書いた文と推敲した後の文を比べ、書き直してどこがよくなったかを互いに指摘し合うとよい。 ○漢字の成り立ちを正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書くようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
11 ～ 12	6 (書く1)	二 表現の効果を考えながら、登場人物の関わりをとらえて読もう	□表現の工夫や登場人物の関わりをとおして、『雪わたり』の魅力を紹介する文章を書く。				
		雪わたり	△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。 また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 →知技(1)オ △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 →◎知技(1)ク △文章を音読したり朗読したりすること。 →知技(1)ケ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 →思判表B(1)ウ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 →思判表B(1)カ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 →思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 →◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 →思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 →◎思判表C(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 →思判表B(2)ア □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 →思判表C(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして、自分と異なる意見や立場を大切にするとともに、自然の偉大さを知り、自然環境についての考え方を深める。	1 2 3 4 5 6	○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. 物語の設定や出来事、変容について読む。 (1) 四郎とかん子がきつねに会えるのはどんな時なのか確かめる。 (2) 森の中で何が起きたのか確かめる。 (3) 物語の最初と最後の場面で変化したことを確かめる。 考えよう 2. やま場を探す。表現の工夫やその効果について紹介し合う。 (1) 四郎とかん子のきつねに対する考え方が変わった「やま場」の場面をさがす。 (2) 表現のくふうについて、思ったことや、どのような効果があるか考えたことを、紹介し合う。 *リズムのある表現 *たとえを使った情景描写 深めよう 3. 物語を読んで、人間ときつねの関係について考えたことをノートにメモし、話し合う。 広げよう 4. 『雪わたり』の魅力を発表し合う。 (1) 「雪わたり」の魅力を紹介する文章を書く。 (2) 他の人の紹介文を読んで、着目点や表現のよさを見つける。 ○学習を振り返る。	○表現の工夫や登場人物の関わりを考えながら読み、物語の魅力を紹介するという単元の見通しをもたせる。 ○四郎とかん子がきつねに会えた回数や場面を確認し、会えた場面の共通点をとらえられるようにする。 ○きつねとの出会いや、きつねに言われたこと、四郎やかん子の行動から出来事を確認できるようにする。 ○四郎とかん子から見たきつね、きつねから見た四郎とかん子について考え、変化したことを確かめられるようにする。 ○5上「大造じいさんとがん」で学習した「やま場」(物語の中で、中心人物の心情や行動が大きく変わるところ)を確認するとよい。教科書下段の例にあるように、四郎とかん子のきつねへの見方がどのように変わっていったのか考えられるようにする。 ○「ここが大事」にあるように、「表現のくふう」がこの物語の大きな特徴である。 ○「リズムのある表現」……教科書に取り上げてあるものの他にも、歌であったり、呼びかけであったり多くの箇所がある。「五・七調」が基本となっており、この物語全体のリズムを形づくっている。声に出して読み、リズムを感じさせたい。 ○「たとえを使った情景びょうしゃ」……教科書で取り上げた例にもあるように、野原や林の中など、直喩（「たとえば……のよう」「あたかも……みたい」など）と暗喩（「……みたい」を使わずに、「あい色の木のかげが一面あみになつて」のように例える）をふんだんに使って情景を描写している。それらが、「冬」を象徴するような冷たく鋭い透明感の中に、「あたたかさ」を感じさせているようである。 ○ここであいう「魅力」とは、印象に残ったなどのような意味である。 ○三つの視点から考えることができる。 「表現の特徴」や「対象への見方・考え方の変容」, 「人物の行動、あるいは、人物の相互交流」などの視点から考えることができる。 教科書の例は、前半は、「表現の特徴」視点で考えている。後半は、「対象（きつね）への見方・考え方の変容」について書かれている。 ○発表にあたっては、「なるほどと思ったところ」「いいなと思うところ」など、長所を中心に聞き合うようにする。 ○ p.62の「言葉」の設問は、学習活動の中で適宜取り扱う。	◎【知技】比喩などの表現の工夫に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思判表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ） ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ） 【態度】進んで物語の表現の工夫や登場人物の関わりを読み、学習の見通しをもって『雪わたり』の魅力を紹介する文章を書くとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
12	5 (書く 2)	「図書すいせん会」をしよう	□印象に残った作品を取り上げ、推薦の仕方を工夫して、「図書すいせん会」を開き、読書の幅を広げ合う。 △日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。 ⇒◎知技 (3) オ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1) ア ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1) ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1) エ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1) カ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒◎思判表C(1) カ ■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。 ⇒思判表B(2) ウ □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2) イ □学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。 ⇒思判表C(2) ウ ☆図書館指導：紹介カードや感想交流コーナーを活用して、読書の幅を広げ合う。	1	○推薦の仕方を工夫して、「図書すいせん会」を開くという学習内容をとらえ、学習の見通しをもつ。 1. 推薦の仕方や好きな本について話し合う。	○「図書すいせん会」の概要を知らせ、学習の見通しをもたせる。 ○『「町じまん」をすいせんしよう』で学んだ推薦の仕方を想起させる。 ○自分の読書について振り返らせる。 好きな本について、簡単にあらすじや好きなわけを発表し合い、「図書すいせん会」への意欲を喚起する。	◎【知技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。（〔知識及び技能〕(3) オ） ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（〔思考力、判断力、表現力等〕C カ）
				2	2. 推薦する本を決めて内容を考える。	○本を読み直し、本のよさが伝えられる内容を考えさせる。p. 64を参考に推薦する内容をノートにメモさせる。	【態度】積極的に推薦の仕方を工夫して、学習課題に沿って「図書すいせん会」を開き、読書の幅を広げ合おうとしている。
				3・4	3. 「図書すいせん会」の準備をする。 (1) 内容にあった効果的な方法を選ぶ。 (2) 推薦の文章を書く。	○推薦の方法の例として、6点が紹介されている。そのうち、4点の具体例が示されている。それぞれの特徴やよさについて考えさせる。また、他の方法があれば、創意・工夫させたい。 ○友達が読んでみたくなるように、構成や推薦の言葉を工夫させる。 ○作品の紙や形、大きさなどは各自工夫させる。	
				5	4. 「図書すいせん会」を開き、推薦の文章を読み合い、感想を伝え合ったり、友達が推薦した本を読んだりする。	○互いに作品を見ながら、本のよさが伝わっているか、読んでみたくなるような工夫がされているかなどを評価し合うようにする。 ○作品は学校図書館で本と一緒に展示・掲示すると、作品を作った児童、見た児童、双方の読書意欲を高められる。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
12	3 (話す聞く1)	言葉で伝える，心を伝える	△相手の立場を意識しながら，自分の気持ちを言葉で伝える。 △言葉には，相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア ◇話の内容が明確になるように，事実と感想，意見とを区別するなど，話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて，話の内容を捉え，話し手の考えと比較しながら，自分の考えをまとめること。 ⇒◎思判表A(1)エ ◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い，考えを広げたりまとめたりすること。 ⇒◎思判表A(1)オ ◇それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。 ⇒思判表A(2)ウ	1	○学習内容を理解し，日常化への見通しをもつ。 1. p.68・69の会話文を読み，二人のやりとりの背景を理解する。 2. 二人のやりとりの問題点を話し合って考える。	○二人の状況を「昨日の会話」から読みとらせるようにする。 ○二人の会話から，待ち合わせをしたときの事実を整理させる。 ○事実をもとに，どのようなずれが生じたのかを確認させ，問題点を導き出させるようにする。	◎【知技】言葉には，相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【知技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）
				2	3. 二人の仲直りの仕方を考えて発表する。 4. p.70の仲直りの会話文を読み，どういうところを大切にしていって仲直りしたのか，「相手の立場に立つ」「くわしく伝える」「きちんと確認する」というポイントを確認する。	○問題点となった「相手の立場に立って」会話していたか，「くわしく伝えようとしていたか」「確かめよう」としていたかがどこの箇所なのか，p.69の会話に戻っておさえさせると理解がより深まる。	◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて，話の内容を捉え，話し手の考えと比較しながら，自分の考えをまとめている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Aエ） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い，考えを広げたりまとめたりしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Aオ）
				3	6. p.71を読み，二人のやりとりの状況を整理し，理解する。 7. 二人のやりとりに対し，第三者の立場から客観的にみて，助言を考える。 8. どのように伝え合えばよかったのかを考えて二人への助言を発表し，よりよいものを考える。 ○学習したことを振り返る。	○二人の状況は，初めにある状況確認の文に注目させることが必要であることを感じさせる。 ○二人の立場の違いを理解したうえで，会話文の内容を読み取らせるようにする。 ○前の活動を受け，どちらかの立場で改善点を導くのではなく，第三者の立場で客観的に物事を見て，助言を考えさせるようにする。	【態度】積極的に相手の立場を意識し，今までの学習を生かして相手の立場を意識しながら，自分の気持ちを言葉で伝えようとしている。
1	1	詩を味わおう はたはたのうた	□さまざまな昔の作品を読みながら，詩の世界を味わう。 △思考に関わる語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，語句と語句との関係，語句の構成や変化について理解し，語彙を豊かにすること。また，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ⇒◎知技(1)ク △文章を音読したり朗読したりすること。 ⇒知技(1)ケ △語句の由来などに関心をもつとともに，時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き，共通語と方言との違いを理解すること。また，仮名及び漢字の由来，特質などについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ	1	1. 『はたはたのうた』 (1) 全編を音読して「はたはた」という魚のイメージを話し合う。 (2) 題名の「うた」に着目し，「はたはた」の繰り返しからどんな思いの「うた」であるかを想像し合う。 (3) 「歌」の思いが表れるよう，工夫して音読する。	○「はたはた」がどんな魚かを，「すがた」「とれる目のしるし」「ごちそう」「母」などの言葉からイメージさせる。 ○「はたはた」への思いを「うた」と題して表した作者の思いを想像させる。 ○「はたはた」をさまざまな面から照らして歌い上げた思いが繰り返しに表れるように読ませたい。	◎【知技】比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに，時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付いている。また，仮名及び漢字の由来，特質などについて理解している。（〔知識及び技能〕(3)ウ）
		雪	□登場人物の相互関係や心情などについて，描写を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめること。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し，自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ □詩や物語，伝記などを読み，内容を説明したり，自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ		2. 『雪』 (1) 行詩「雪」を読み，描かれた情景について話し合う。 (2) 話し合いで出てきた着眼点について想像を広げ，作品の世界を味わう。 (3) 情景が伝わるように声量や間，声の調子を工夫して音読する。	○作品を繰り返し味わって読み，浮かんでくる情景について話し合わせ，「描かれている場所の様子」「今の時間帯」「雪の降り方」「太郎や次郎の年齢や関係」など，より想像したい着眼点を絞り込みたい。 ○都会か村か，夕方か深夜かなど，着眼点にそって想像を深め，情景から広がる世界を味わわせるようにする。 ○詩の味わいが人に伝わるように工夫して音読する。	◎【思判表】「読むこと」において，人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Cエ） 【態度】進んで昔の作品を読み，学習の見通しをもって詩の世界を味わおうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
1	6 (書く 6)	三 事実と意見を結びつけて書こう	■身のまわりの生活から課題を見つけ、事実と意見を結びつけて提案文を書く。				
		提案文を書こう	△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ⇒知技(1)イ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。 また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒◎思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	1 2 3 4・5 6	○「学習の進め方」を読んで、活動のイメージを具体的につかみ、学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 取材して、提案する事柄を決める。 組み立てよう 2. 提案文の構成を考える。 書こう・読み返そう（重点） 3・4. 読む人に提案したいことが伝わるように書き、推敲する。 伝え合おう（重点） 5. 提案文を読んだ感想を伝え合う。 ○学習を振り返る。	○提案文を読んでもらう相手や、書く目的を明確にし、児童の書くことへの意欲を高める。 ○p.74「身のまわりの生活から、課題を見つけるには」やp.79「提案することがらの案」を参考に、児童に課題意識をもたせる。誰に、もしくはどんなことを伝えたいかを明確にすることで、題材とする場（学校生活・日常生活など）も絞られてくるだろう。 ○「課題」と「改善」の視点に分けて、書きたいことを整理してもよい。付箋を使って整理させる際には、p.75上段を参考にしたい。 ○p.75下段の構成表を参考に、提案文の内容や段落構成を考える。「始め・中・終わり」とあわせて段落構成も考えることで、伝わりやすい文章になることをおさえる。 ○身近な体験や経験を入れて書くと、自分の考えが伝わりやすくなることをおさえる。 ○実際にインタビューなどをして事実に基づいて書かせたり、資料を引用したりするなど、今まで学習してきたことを活用してもよい。 ○前時で作った構成表を見ながら、文章全体の構成を考えて書く。p.76・77の文例と注意点を見て、「話題提示」や「提案理由」などを入れることで、読み手にどんな印象を与えるかを確認させてもよい。 ○クラス内で交流するだけでなく、他クラスや全校生徒に読んでもらうなど、書いてよかったという実感を児童がもてるようにする。 ○自分の意見とその根拠となる事実を関連させながら提案文が書けているかを、よく振り返らせる。	◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ） ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bカ） 【態度】積極的に身のまわりの生活から課題を見つけ、学習課題に沿って事実と意見を結びつけて提案文を書こうとしている。
1	2	和語・漢語・外来語	△和語・漢語・外来語の由来と特質を理解し、それぞれから受ける印象のちがいについて考えることができる。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。 また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。 また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ	1 2	○日本語には和語・漢語・外来語があることを知り、学習活動に対する見通しをもつ。 1. 和語・漢語の由来と特質について理解する。 2. 外来語の由来の基本について理解する。 3. 外来語が、諸外国の文化の影響を受けて成り立っていることを理解する。 4. 和語・漢語・外来語から受ける印象のちがいや使い方の違いなどについて話し合う。 ○学習したことを振り返る。	○教材冒頭部を読み、二つの文の違いを指摘させ、和語と漢語から受ける印象が異なることに気づき、なぜそのようなことになっているのかを考えようという意欲をもたせる。 ○p.80・81を読み、和語と漢語の由来と特徴をそれぞれノートにまとめさせる。 ○p.81を読み、外来語の由来をノートにまとめさせる。 ○p.81下段の設問に取り組ませ、国語辞典を用いて外来語の出自を調べさせる。 ○p.82を読み、外来語の由来と特徴をノートにまとめさせる。 ○p.82下段の設問に取り組ませ、語感や使い方の違いについてグループで話し合わせる。 ○日常生活の中で気づいた外来語によく似た意味で使われる和語や漢語をあげ、それぞれの感じ方や使い方の違いを話し合い、その表記を使うよさについても意識させる。 ○和語・漢語・外来語はそれぞれ由来や特徴が異なっているので、適切に使い分けることが大切であることを理解させる。	◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付いている。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。（〔知識及び技能〕(3)ウ） 【態度】積極的に和語・漢語・外来語の由来と特質を理解し、今までの学習を生かしてそれぞれから受ける印象のちがいについて考えようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
1	1	漢字の広場 ⑤ 同じ音の漢字	△同音の漢字，同音異義語について理解する。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに，送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △語句の由来などに関心をもつとともに，時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き，共通語と方言との違いを理解すること。また，仮名及び漢字の由来，特質などについて理解すること。 ⇒知技(3)ウ	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 1. 「強力」と「協力」が，それぞれどんな意味を表しているか，考える。 2. 同じ音の言葉である「開心・感心」などの意味を国語辞典で調べ，文脈にふさわしい熟語をあてはめたらよいか，話し合う。 3. 意味や使い方を漢字辞典で確かめて，「氏名」や「指名」などの言葉を使って文を作る。 4. p.85の下段の設問をノートに書き，上の欄内の漢字の意味や使い方を漢字辞典で調べ，それぞれふさわしい漢字をあてはめる。	○同じ音の漢字について理解するという学習課題を確かめ，漢字の使い方などを理解できるようにし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○二つの文を声に出して読み，文の意味を考える。 ○二つの語の意味を推測する。 【例】「強力」（強い→力，力強い） 「協力」（合わせる←力を） ○「強力」と「協力」のそれぞれの意味と，「強」「協」の意味の違いが見てわかる構造的な板書に努める。 ○どちらの熟語を使うことがふさわしいかについて，判断のよりどころとなるものを話し合う。 ○同音異義語の使い分けには，「文脈に合った熟語を選ぶこと」「熟語の意味を考えて選ぶこと」が必要であることをおさえたい。そのうえで国語辞典で意味を調べるようにする。 ○同じ読み方の漢字について，それぞれの意味が似ているか，大きく変わっているかを確認する。 ○作った文が，それぞれの言葉の意味に合った使い方をしているかを互いに指摘し合うようにする。 ○同じ音の漢字の使い分けは，文脈から，それにふさわしい漢字を選ぶようにすることを意識できるようにしたい。 ○漢字辞典で一つ一つの漢字の本来の意味を確認することが必要となる。 ○p.85の下段の設問で，上の欄内に掲げる漢字は，すべて形声文字である。「音を表す部分」が共通するので，同音となったり，字形も意味も似かよったりして，互いにまぎらわしい。そこで，それぞれの部分に着目し，区別することができるようにしたい。 ○三つの例題を一度に解くのではなく，一組みずつ，漢字一字一字の意味を確かめながら進める。その際，共通する部分の意味だけでなく，異なる部分（部首）の意味の違いと熟語のつながりに着目できるようにする。	◎【知技】文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに，送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】積極的に同音の漢字，同音異義語について理解し，学習課題に沿って同じ音の漢字を正しく使い分けようとしている。
1	1 (書く1)	漢字の広場 ⑤ 四年生で学んだ漢字 ⑤	△絵を見て想像したことをもとに，4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに，送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ ■筋道の通った文章となるように，文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど，考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	2	5. 教科書の絵を見て，描かれている様子について説明する。 6. 4年生までに習った漢字を使って，絵に描かれている様子や物，人物がしていることなどを説明する文を書く。 7. 作った文を互いに発表し合う。 ○学習したことを振り返る。	○絵の中にある4年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ○絵に描かれたことと，言葉からわかる病院の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 ○描かれている人物と行為，場や時間の状況，物品など，視点を提示するとわかりやすい。 ○描かれている人物と行為，場や時間の状況，物品など，視点を提示するとわかりやすい。 ○読み手が理解しやすいように伝えたいこと，知らせたいことを明確にして書くよう働きかける。 ○互いのよいところを発表し合うとよい。 ○同じ音の漢字を正しく理解したり，漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【思判表】「書くこと」において，筋道の通った文章となるように，文章全体の構成や展開を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Bイ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，教科書の絵を説明する文を書くようにしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
2	10 (話す聞 く5, 書 く1)	四 「まんがの方法」とその 効果について、自分の考えを もとう	□◇事例と解説を合わせて文章を読むことで理解 を深め、自分の考えを資料の示し方を工夫して効 果的に発表する。				
2	5 (書く 1)	まんがの方法	□文章を読んでまんがの表現方法やおもしろさを 理解し、まんがに対する自らの考えの変化を文章 に表す。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で 使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成 や変化について理解し、語彙を豊かにすること。 また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し て、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる 語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書い たりするとともに、事実と感想、意見とを区別し て書いたりするなど、自分の考えが伝わるように 書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ □事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押 さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握するこ と。 ⇒思判表C(1)ア □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるな どして必要な情報を見付けたり、論の進め方につ いて考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の 考えをまとめること。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自 分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考 えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表 B(2)ア □説明や解説などの文章を比較するなどして読 み、分かったことや考えたことを、話し合ったり 文章にまとめたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア	1 2・3 4 5	○単元名とリード文を読み、「まんがの方法」につい て話し合い、資料を有効に活用した発表を行うとい う学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. 文章で紹介されたさまざまな「まんがの方法」 と、その効果を読み取る。 (1) まんがのおもしろさのひみつについて、考え る。 (2) まんが、絵本、物語を比べて、まんがの特徴が何か を話し合う。 考えよう 2. 文章で紹介されているさまざまな「まんがの方 法」が、書かれている段落や効果などをノートにまと める。 深めよう 3. 「まんがの方法」を紹介する、筆者の手順や表現 の特徴について話し合う。 広げよう 4. まんがに対する考えを、『まんがの方法』を読む 前と比べ、その変化を文章に表す。 (1) p.99 に示された三つの構成で文章を書く。 (2) 書いた文章を友達と読み合い、『まんがの方 法』を読む前と読んだ後の考えの変化や、まんがにつ いて気づいたことなどを交流する。 ○学習を振り返る。	○教材文を読み、さまざまな「まんがの方法」を理解す ることで、まんがに対する考えがどのように変化したか を文章に表すという流れを確認する。 ○「まんがの方法」がわかりやすいまんがを用意してお き、「まんがの方法」を確かめたり、新たに見つけたり する目的で読む機会を与えることも考えられる。 ○第3段落の「まんがに特有の、共通した表現方法」を 「まんがの方法」と呼ぶと書かれている定義をおさえ る。具体的には、以下のものである。 コマ・フキダシ・手書きの文字・人物のえがき方（表 情）・物語の進行の仕方・背景・ナレーター言葉 ○「まんがの方法」の「効果」と判断しにくい表現もあ る。その「まんがの方法」の「よさ」「特長」などと置 き換えてもよい。 ○まず、どんな「まんがの方法」が紹介されているのか をノートにまとめる。それを確認し、効果が書かれてい る文に線を引かせ、一人一人が箇条書きにしたうえで、 全体で確認する。 ○ p.100 の「言葉」の設問には、文章中で多く使われ ている符号（「」）のはたらきが示されている。それ ぞれの「まんがの方法」を確かめる際、出てきた符号に ついては適宜、はたらきを考えさせる。 ○「みなさんも」という読者に語りかける技法はこの文 章の特徴のひとつなので、p.99 の下段をもとに、児童 に探させたい。 ○ p.99 の下段をもとに、まずは一人一人の児童が手順 や表現の特徴を見つける時間をとり、その後、グループ や全体で話し合うようにする。 ○ p.99 の下段の文例は、それぞれ設問の①～③に対応 している。「読む前→気づいたこと→新たな考え」と順 を追って書かせるとよい。 ○②では、文章を引用するなどして気づいたことを書か せる。紹介された「まんがの方法」について気づいたこ とを書くだけでなく、日本のまんがが世界で親しまれて いることや、「まんがの方法」の広がりについて自分の 考えを記すよう助言したい。 ○考えがどのように変化したか、そのきっかけとなった 気づきはどのようなことかなど、視点を明確にして読み 合い、交流するようにする。	◎【知技】思考に関わる語句の 量を増し、文章の中で使ってい るとともに、語句と語句との関 係、語句の構成や変化について 理解し、語彙を豊かにしている 。また、語感や言葉の使い方 に対する感覚を意識して、語や 語句を使っている。（〔知識及 び技能〕(1)オ） 【思判表】「書くこと」におい て、目的や意図に応じて簡単に 書いたり詳しく書いたりしてい るとともに、事実と感想、意見 とを区別して書いたりしている など、自分の考えが伝わるよう に書き表し方を工夫している。 （〔思考力、判断力、表現力 等〕Bウ） ◎【思判表】「読むこと」にお いて、目的に応じて、文章と図 表などを結び付けるなどして必 要な情報を見付けたり、論の進 め方について考えたりしてい る。（〔思考力、判断力、表現 力等〕Cウ） ◎【思判表】「読むこと」にお いて、文章を読んで理解したこ とに基づいて、自分の考えをま とめている。（〔思考力、判断 力、表現力等〕Cオ） 【態度】粘り強くまんがの表現 方法やおもしろさを理解し、学 習の見通しをもってまんがに対 する自らの考えの変化を文章に 表そうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
2	5 (話す聞く5)	ひみつを調べて発表しよう	◇資料を生かした構成を考えて、効果的に発表する。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒知技(1)カ △日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。 ⇒知技(1)キ △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒A(1)ア ◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。 ⇒◎A(1)イ ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ⇒◎A(1)ウ ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 ⇒A(1)エ ◇インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 ⇒A(2)イ ☆社会科・総合的な学習の時間・特別活動：根拠や理由をはっきりさせて、自分の考えを述べる。	6 7・8 9 10	○不思議だと思うことからテーマを選び、調べて発表するという学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 5. テーマを決め、伝えたいことの中心を考える。 (1) テーマと発表方法を決める。 (2) 発表の中心になる柱を決める。 (3) 内容にそった資料を集める。 (4) 柱をもとに発表の構成を考える。 組み立てよう（重点） 6. 発表の準備をする。 (1) 発表の仕方の工夫について考える。 (2) 発表練習を行い、発表の内容と方法を見直す。 話そう・聞こう（重点） 7. 発表する。 ふりかえる・いかす 8. 自分たちの発表を振り返る。	○自分たちが調べたことを資料や見せ方などを工夫することによって、効果的に発表することを理解させ、その発表方法を意識づけ、自分たちもその方法で発表していくように意欲づける。 ○伝えたいことを「～のひみつ」とすることで、それを解明するように聞き手に根拠を示していくことになる。○テーマを決める際に、4月に学習した「情報ノート」を活用できるなら、参考資料として持ち寄らせる。自分の「情報ノート」を活用する機会を作りたい。 ○「柱」という言い方で発表の中心をはっきりさせ、それを受けて構成表ができていき、提示資料が決まる。 ○資料作りとその提示の仕方の検討に、時間を確保するようにしたい。 ○発表するときと聞くときの大事なことを、開始前によく確認する。 ○話し合いでは、自分たちの資料作りや内容を踏まえた意見や感想も出されるとよい。 ○グループごとの振り返りを十分に行い、それぞれ発表して交流するようにする。 ○資料を使った効果的な発表の仕方を日常生活の中でも考えて、活用していくように意識づけ、意欲づけを行う。	◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） 【態度】進んで資料を生かした構成を考えて、今までの学習を生かして効果的に発表しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
2	1	漢字の広場 ⑥ 送りがなのきまり	△送り仮名について理解を深め、正しく書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 二つの文にあるそれぞれの「集」の適切な送り仮名について話し合う。 2. 動詞や様子を表す言葉など、活用のある言葉の送り仮名について知る。 3. 名詞のように活用のない言葉の送り仮名について知る。 4. p.109下段の設問を解き、送り仮名のきまりについての関心を深める。	○送り仮名のきまりについて理解するという学習課題を確かめ、漢字の使い方などを理解できるようにし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○「集まる」の送り仮名が「集る」でも「集つまる」でもない。また「集める」の送り仮名も「集る」でも「集つめる」でもない。そのわけを考えられるようにしたい。 ○格助詞に着目し、「～が集まる」「～を集める」と経験的に理解できるようにするとよい。 ○「読み方を区別する」「意味をはっきりさせる」という送り仮名のはたらきを押さえておく。 ○原則として、形が変わる部分から送り仮名をつけることにしている。 【例】あるかない、あるきます、あるいた、あるく、あるけば、あるこう→歩く ○変わる部分の前から送り仮名をつけるものがあることも確認しておく。 【例】あたらしかった、あたらしくなる、あたらしい、あたらしければ→新しい ○辞典などを活用して調べる活動を取り入れ、自ら送り仮名の法則性に気づくようにするとともに、正しく使うことの必要性を感じることができるようになりたい。また、迷ったときには、その場で辞典などで確かめる態度も養っておきたい。 ○名詞を表す漢字には、原則として、送り仮名をつけないことにしている。 ○名詞でも送り仮名をつけるものがあることも確認しておく。 【例】「後ろ」「辺り」など ○動詞や様子を表す言葉からできた名詞は、もとの語の送りがなの付け方によって送る。 【例】「晴れ」「厚さ」など ○中には習慣に従って、送らないものがあることも理解できるようにする。 【例】「番組」「日付」など ○送り仮名のつけ方に迷ったときには、活用を意識したり、派生・対応関係にある仲間の言葉を想起したりして、仲間の言葉の送り仮名に合わせるとよい。これを日常的にできるようこの機会に経験しておきたい。 （例）「つもる」→「つむ」→「つみ木」→「つ・もる（積もる）」	◎【 【知技】 】文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【 【態度】 】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって送り仮名について理解を深め、正しく書こうとしている。
2	1 (書く 1)	漢字の広場 ⑥ 四年生で学んだ漢字 ⑥	△絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)オ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(2)ア	2	5. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 6. 4年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 7. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ○学習したことを振り返る。	○絵に描かれたことと、言葉からわかる学校生活の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 ○描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 ○描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 ○学校生活の様子がはっきりわかるよう書き表し方を工夫するようはたらきかける。 ○表現を改めたり、書きまちがいなどを正したりして、書いた文を発表する。 ○初めに書いた文と推敲した後の文を比べ、書き直してどこがよくなったかを互いに指摘し合うとよい。 ○送り仮名のきまりを正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【 【知技】 】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【 【思判表】 】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ） 【 【態度】 】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
3	2 （話す聞く1・書く1）	国語の学習 これまで から	◇一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、計画的に学習できるようにする。 △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 →知技(1)カ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 →◎思判表A(1)ア ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 →思判表B(1)ア ◇それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。 →思判表A(2)ウ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 →思判表B(2)ア	1	1. 一年間の国語の学習を振り返り自分が学んできたことを、「五年生で学ぶこと」を見ながら書き出したり話し合ったりする。	○上・下巻の教科書、学習のノート、作成物、プリント類（ポートフォリオ）などから振り返ることができるようにする。「五年生で学ぶこと」や挿し絵や吹き出しを参照する。楽しかったことを中心に思い出させたい。 ○心に残っている単元や教材、学習活動、また心に残っている言葉などを具体的にメモし、発表し合う。 ○友達の記事を共感して聞き交流し、学んできたことを共有できるようにする。	【知技】話の構成や展開、話の種類とその特徴について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aア）
				2	2. 六年生になったら1. で出し合ったことがどのように広がっていくのか、想像したり希望を出し合ったりする。	○五年生になって「またやってみたい活動」「もっと読んだり書いたりしてみたいこと」「取り組んでみたい活動」など、いろいろな観点で話し合うようにする。	【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア） 【態度】積極的に一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、今までの学習を生かして計画的に学習しようとしている。